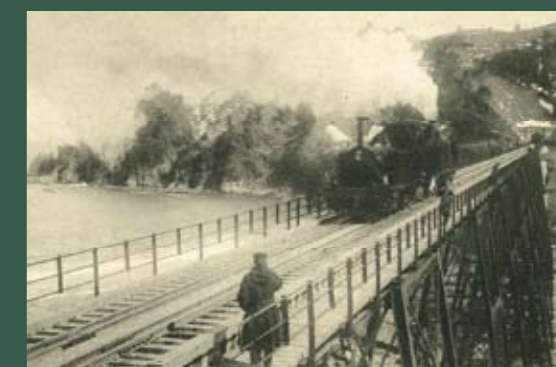




2007年6月に撮影した列車運行風景

さらば、余部鉄橋
そして後世へ…

明治45年、山陰本線に
東洋一の規模を誇る余部鉄橋が誕生した。
鋼材で高い櫓を組んだ
トレスル式高架橋を採用した余部鉄橋は、
最高の土木技術陣が結集され、
延べ25万人以上が工事にに関わり、
わずか2年2ヶ月という短期間で完成されたという。
海岸から近い潮風の影響が大きい余部鉄橋を、
錆から守るため、
「橋守」の人々をはじめ鉄道関係者が
大変な努力のもと保全につとめてきた。
鉄橋完成から約半世紀後の昭和34年には
余部の人たちが待ち望んだ餘部駅が誕生。
念願の一番列車が到着したとき、
村人たちの歓喜の声が村中に響き渡った
エピソードが残っている。
約100年もの間、多くの人に愛され、
親しまれてきた余部鉄橋は、
防風壁を備えた「平成の新余部鉄橋」として
平成22年に生まれ変わる。
日本海の大海原を背景に、
高くそびえるその雄姿は
いつまでも心の中に
生き続けることだろう。
さらば、余部鉄橋。
長い間ごろうさま!



余部鉄橋を渡る試運転車両 (明治45年1月28日)
写真提供:兵庫県新温泉町 下田英郎氏